

グリーンハーバー

NPO法人 みどりの市民 ニュースレター

No.68号
2026年1月

発行:NPO法人
みどりの市民
380-0948 長野市差出
南2-14-23 ブンゲイ
印刷ビル3階
発行人:高木直樹

寄稿

新年のご挨拶

長野市環境部長 竹内 孝謹

令和8年の新春を迎え、NPO法人みどりの市民の皆様に謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

皆様方には、設立以来永年にわたり、環境配慮型の生活様式の普及など、環境問題全般にわたる市民活動を展開していただいておりますことに深く敬意を表する次第です。

また、「生ごみ減量アドバイザー派遣制度」など、本市の環境行政にご協力をいただいておりますことに心より感謝を申し上げます。

昨年を振り返りますと、群馬県伊勢崎市で41.8℃という国内の観測史上最高気温を記録し、各地で深刻な水不足が発生するなど、地球温暖化による異常気象が深刻さを増す一方、国際的には、国連気候変動枠組条約第30回締約国会議(COP30)が開催されたものの、アメリカでは政権交代により気候変動対策が大幅に後退するなど、地球温暖化問題への取組にブレーキがかかる年でした。

本市では、そのような中でも、2050年ゼロカーボンに向けた地球温暖化対策を推進しており、令和7年度は、市内の道路灯や公園灯など4,000灯余りの照明器具を「ESCO事業」により一括してLED照明に交換するなどの取組を行っております。



また、循環型社会の実現に向けましては、以前から分別収集していたプラスチック製容器包装に新たにプラスチック製品を加えたものを「資源プラスチック」として分別収集し、再資源化ルートに乗せる取組をモデル地区において実施いたしました。

令和8年度は全市的に「資源プラスチック」の分別収集を実施し、ごみの減量と再資源化をさらに推進してまいります。

皆様方におかれましては、引き続き、本市の環境行政にご協力いただきますようお願い申し上げます。結びに、皆様方の益々のご健勝とご活躍をお祈り申し上げ、新年のあいさつといたします。

「設立22周年記念誌」発行 ようやく完成！



みどりの市民は、2003年5月に法人格を取得。以来、今日まで持続可能な社会を目指し、様々な活動をしてきました。その活動が評価され2024年信州エコ大賞を受賞しました。いただいた副賞を活用して、これまでの活動を「設立22周年記念誌」としてまとめ、11月末に発行することができました。

記念誌はA-4判32ページフルカラー版です。200部を印刷し、会員はじめ関係者に配布する予定です。

内容は、2003年から2024年までの22年間の沿革、年表、事業毎の活動報告、会員のメッセージと写真などで構成されています。記念誌の配布を兼ねた設立22周年記念「おしるこ会」を下記の日程で開催します。

完成した記念誌

★日時:2026年1月11日(日)10時~12時

★会場:ふれあい福祉センター第2会議室

活動紹介

気候変動防止への活動

～ クライメート・リアリティ・プロジェクト～

理事 小池啓道

2025年の夏は、特に暑かったと感じられた方も多いかったと思います。日本では最高気温の更新、長野市においても猛暑日が連続してエアコンなしでは過ごせない日もありました。そうかといえば、一気に温度が下がったり、また上昇したり、冬に向けて徐々に温度が変わる秋があったのかというぐらいに天候不順でした。

温暖化という言葉よりも気候変動や気候危機といわれることが合っている状態です。人や自然にとって急激な変化はいいことではないと思います。こうした気候変動をなんとか食い止めよう、緩やかなものにしていこう、そのため活動している団体の一つが「クライメート・リアリティ・プロジェクト」です。みどりの市民でも持続可能な社会のために、連携した活動をしていこうと活動計画にいれてありますが、まだあまり知られていないと思いますのでどんな団体なのかについて紹介します。

「The Climate Reality Projekt」(略して「CRP」)は、元アメリカ副大統領のアル・ゴア氏が立ち上げ、会長を務めています。アル・ゴア氏は『不都合な真実』という映画を2006年に公開し、アカデミー賞と、温暖化を社会に知らせたことでノーベル賞を受賞しています。気候の危機に対して世界中で力を合わせて解決策を創り出すために、また、多くの人たちが行動できるように活動をしています。

活動の中心となるトレーニングを受けたリーダーは、世界192か国、約53,000人、日本では994人おり、私もその1人です。日本では2019年に東京で初めてトレーニングが開催され、10代から80代まで幅広いバックグラウンドを持つ方が参加し、都知事の歓迎あいさつのほか政府、企業、NGO、研究者などに次々と講師を務めていただきました。日本で開催できたのは、環境分野でも活躍されている枝廣淳子さんが、長年にわたってゴア氏と親交があったからで、当日は通訳も務められました。参加希望は定員の2倍あったと聞いています。長野県内では、白馬や小布施の方と交流することができました。その後日本支部ができて現在に至っています。

CRPでは、温暖化ガスの削減(脱炭素社会)やクリーンエネルギー推進のための資金調達、そのための情報発信や政府や企業への働きかけをしています。また、全世界的な活動であるため、人権や文化ということも大切にしていて、D E I J (D:多様性、E:公平性、I:包摶、J:正義)と呼ばれるものについての理解も同時に進めています。環境保護等の理念が至上であり、理解できない人を排除するとか、企業や行政に押し付けていくというような環境テロともとれる行動をするのではなく、理解を深めながら社会を変えていくことを重視しています。

「変えなくてはならない。変えることはできる。私たちは変える。」

日本支部では、具体的に活動するために、気候教育、エネルギー、生物多様性、地域の気候対策、ビジネス・アクションの5つのアクショングループを作り、約100人が参加しています。アクショングループをサポートするためにインターンの学生たちが加わってくれています。私はこのうちの気候教育グループに加わっていて、学校や地域への環境学習や研修に役立つ教材などの作成、研修を行っています。

このような教材を単独で作ることはなかなかできないので、多彩なグループメンバー(研究職、教員、コンサルタント、インストラクター、ジャーナリストなど)と相談しながら実践しながら進めています。

先日CPO30も開催されました。

こうした情報もいれながら、みどりの市民の活動フィールドである長野市を中心にCRPとも連携していきたいと思っています。



2019年 東京会場

活動報告Ⅰ 信州環境カレッジ学校講座その後

世代をかけるエコ活動

「地球はね いのちを乗せて走るふね」

これは私が環境活動に携わったころの2002年に開催された「ながの環境フェア」「エコ川柳展」の小学生の川柳です。私はその頃、リフレッシュプラザに勤務し、ながの環境フェア事業を担当していました。かけがえのない地球を汚さないように、きれいにしようということを多くの人に伝えるために、エコかるた制作委員会ができ、応募された川柳から50首を選びました。かるたの絵は地元の大豆島小学校に依頼。子どもたちは川柳に込められた環境への思いを絵に描いてくれ、読み札と絵札が揃った立派な「エコ川柳かるた」が完成しました。

20年後、私が所属しているNPO法人みどりの市民では、「信州環境カレッジ」学校講座に、「ドキュメンタリー映画『マイクロプラスチックストーリー』を見て、考え、行動しよう」というプログラムを登録。この映画は、ニューヨーク市の小学校5年生がプラスチック汚染問題を学習し解決に向かってアクションを起こし広げていく2年間を追ったドキュメンタリーです。

今年、大豆島小学校4年のクラスがこのプログラムに応募してくれました。彼らは、環境に关心を持ち、近くの公園のごみ拾いをはじめて、プラスチックごみの多いことに気付いたのです。私は22年前のエコかるたのことを思い出し、担任の先生に伝えました。すると、驚くことに、当時カルタの絵を描いた子たちが、今や親となり、そのお子さんが現在のクラスに二名もいるというのです。そして、エコかるたを手に入れ、カルタ遊びをしながら、ごみ拾い以外の「エコ活動」を学んだといいます。



「マイクロプラスチックストーリー」の映画を観た子どもたちは、学んだことを発展させて、活動をさらに進めようとしています。私は、みどりの市民にあった2セットのカルタをプレゼントしました。カルタは大豆島小学の財産になったと喜んで下さいました。

22年前の活動が世代を超えて繋がったことに感動を覚えました。環境問題が深刻化する時代だからこそ、この「世代を超えた繋がり」は、私たちにとって確かな希望です。過去の努力が未来に繋がる感動を体験できたことは、私にとって何物にも代えがたい宝となりました。

(理事 渡辺ヒデ子)

活動報告Ⅱ 生ごみ減量アドバイザーの活躍

みどりの市民は循環型社会を目指して、長野市から「生ごみ減量アドバイザーの派遣コーディネート」と「研修会の企画運営」を受託しています。



★生ごみ減量アドバイザーの派遣コーディネート

今年度は12月末で31回実施しています。

・長野市主催の生ごみ自家処理講座:11回 ・地域の講座:20回



★研修会企画運営



1回目:5月22日 長野市農業研修センター

「生ごみ堆肥の有効活用～美しいお花(植物)と土づくりと題して、樹木医の塚田真由先生を迎えて実習と講義を行いました。

2回目:9月11日 長野市ふれあい福祉センター

東京大学名誉教授松本聰先生の「生ごみの堆肥化と土づくりパート4」。土壌学の見地からパワフルな講義を受け、活動への知識と意欲を新たにしました。

アドバイザーの講座の様子

活動報告Ⅲ

★信州環境フェアに参加 「エシカルゲームで学ぼう」

日時:2025年7月5日(土) 場所:TOIGO 広場・長野市生涯学習センター

- ・展示:エシカル商品(脱プラスチック商品他)フェアトレードの紹介
- ・エシカルゲーム:エコかるたの絵札作成、環境へ優しいものの説明
- ・七夕飾り(終了後は長野市のふれあい福祉センターで飾りました)



★「ソーラークッカーでサンキャッチャーになろう！！ とよの縁日(マルシェ)に参加



日時 令和7年7月30日(水) 場所 豊野防災交流センター

信州環境カレッジ協働講座として親子対象に、長野県NPOセンターと協働企画し、豊野の被災からのまちづくりで企画したマルシェへ参加しました。長野市の「みらいハッ！ケン」も活用して、ソーラークッカ一体験と高木代表の温暖化のお話もありました。猛暑の中でも、枝豆と卵を茹でて、こどもたちは大喜びでした。



お知らせコーナー



NPO法人みどりの市民は22年間のこれまでのあゆみをまとめた記念誌を発行しました。

記念企画として、これまでの 活動展示とエコにこ講座を行います

あしあと

《活動展示》「みどりの市民 22 年の足跡 そして…」

- ・期 間 :1月 11日(日)~1月 17日(土)
- ・会 場 :ふれあい福祉センター1階 フリースペース

参加無料

エコにこ講座

- 1月 13 日(火) プラスチックはそんなにいるのかな！ (渡辺隆一先生)
- 1月 14 日(水) 冬の省エネ 経費節減して暖かく！ (高木直樹先生)
- 1月 15 日(木) 「PFAS」ってなあに？ 化学物質について考えてみませんか？
- 1月 16 日(金) 生ごみみたい肥化講座 “生ごみ相談承り所”(生ごみ減量アドバイザー)

・時間 : 10 時 30 分~14 時 30 分

はっこうサロン“IKIIKI”～生ごみ堆肥化相談室～

と き : 1月 17 日 (土) 10 時~12 時

と こ ろ : 篠ノ井交流センター学習室 4・5

参 加 費 : 無料、 ちょっとお立ち寄り下さい！

★生ごみ堆肥化困りごと相談・発酵漬物など

《申し込み方法》

下記みどりの市民の事務局へメール、fax で、お名前、連絡先をご連絡ください。

みどりの市民の会員数 (2025年12月1日現在)

正会員 37 人 賛助会員 12 人 団体賛助会員 1 団体
〒380-0948 長野市差出南 2-14-23 ブンゲイ印刷

TEL&FAX 026-217-0514

E-mail:midoric2023@gmail.com

URL<https://midorinoc.sub.jp/>



編集後記

夏は暑くて冬は寒いというのが当たり前で、四季がはっきりしているというのが日本の特徴だと思っていましたが、よくわからない状況になってきました。先が見通せない、不確実な時代の中で、私たちはどうしたらいいのでしょうか。日々の生活も大変ですが、自分にできることを少しづつでも実行していきたいと思っています。やりたいことなど、ご連絡ください。(k)